

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500030
法人名	株式会社 御茶屋の里
事業所名	グループホーム 下の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-23
自己評価作成日	平成24年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人一人の生活リズムを大切に、ご利用者様の視点に寄り添ったケアを心掛けている。 四季を通じての行事で季節感を味わって頂いている。中でも毎年青竹を切り出してのソーメン 流しは涼味を味わいながらの家族さんとの大切な交流の場になっている。 脳トレ等で自分の名前を書き続けられるようにしている。 時折喫茶を開店し利用者様との語らいの場を作っている。
--

●事業所のすぐ側に、鉾山鉄道跡の遊歩道がある。地元の方には、馴染みがあり懐かしく、天気の良い日は散歩に出かけ、行き交う方と挨拶を交わしたり、知人とおしゃべりを楽しんでいる。事業所では、ご家族との関係継続を大切に支援されており、誕生日にご本人から外食等の希望があれば、ご家族もお誘いして一緒にお祝いできるよう取り組まれている。定期的に、ご家族と外食する方がおられ、職員が待ち合わせ場所まで送迎をされている。ご家族のご葬儀に利用者の方が参列する際に、管理者が付き添われたこともある。 ●利用者用のコーヒーチケットが用意されており、ティータイムの時間、気分を替えてお茶の時間を楽しめるよう、チケットを持って他ユニットへ行き、ティータイムを過ごしていただくような取り組みをされている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 下の茶屋

(ユニット名) コスモス

記入者(管理者)

氏 名 筒井 房代

評価完了日 平成 24 年 8 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			以前は毎朝朝礼で唱和していたが最近出来ていない。	
			(外部評価)	
			「笑顔・感謝・交流」という事業所理念は、ユニットの入り口や事務所、居間等に掲示して、職員で共有できるよう取り組まれている。実践者研修に参加した職員は、理念の大切さを再認識され、「笑顔で元気に、利用者に寄り添っていきたい」と話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			月一回の施設周囲の清掃を行っている。又運営推進会議での地域の情報を得て運動会などに参加をしている。 8月に夕涼み会を予定しており、近所の方や家族さん等たくさんの方に参加して頂く予定である。	
			(外部評価)	
			毎年恒例となっている法人全体で行う夕涼み会は、今年は80軒ほどの近所のお宅に案内状を配布され、多くの方と一緒に楽しまれた。近くの他事業所が盆踊りのやぐらを貸してくださったり、地域の方が盆踊りの振り付けを教えてくださいました。当日は、子どもの参加も多く、金魚すくいやヨーヨー釣りをする様子を見て、利用者は喜ばれたようだ。校区の運動会や文化祭には、地域の方から案内をいただき、参加されている。管理者は、地域の人たちの方から挨拶をしてくださることが増えたことで、「行事を通じて顔を覚えていただいている」ことを実感されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進委員会等で、地域の方々と情報交換をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 評価への取組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			地方の方々や入居者、家族様が参加され2ヶ月に1度開催している。その中で認知症について意見交換などを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(外部評価)	
			会議には、公民館長、元公民館長、自治会長、民生委員等に参加していただいている。ご家族には、日程が決まった時点で、事業所便りに載せたり、来訪時等にお誘いしている。会議では、利用者の状況や行事報告、今後の予定を伝え、地域の方が地域行事の案内をしてくださっている。これまでは、事業所の応接室で会議をされていたが、今年はじめて事業所の居間で開催され、参加者に利用者の様子をみていただいたり、触れ合うこともできたことで、今後は、利用者も会議に参加できるよう検討されていた。	事業所は、行事等を通じて地域に顔見知りの方達も増えてきており、今後さらに、地域のいろいろな方に会議参加を呼びかけて、事業所や利用者のこと、又、認知症について理解を拡げていかれてほしい。又、ご家族の参加を増やせるように、会議の議題等をあらかじめ決めて、案内されたり、会議で話し合われた内容を発信する等して、働きかけを工夫されてはどうだろうか。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			勉強会を開き皆で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			法人内事業所で、利用者が一人で出かけて行かれたことがあり、「母体法人の方針」により3月からユニットの玄関をオートロックにされていた。調査訪問時、職員は、ユニットに入室する時にはボタンを押し、出る時は、カードで認証して鍵を開けていた。扉が開くと、外部から人が来たことがわかるようにチャイムが鳴るようにもなっていた。暗証番号でも鍵が開くようになっており、ご家族には訪問時に口頭で説明して暗証番号を伝えておられる。管理者は、「便利な反面、閉じ込めている」のではないかという懸念を持たれていた。鍵をかけることでの弊害を、法人や職員も十分に理解して、利用者の立場に立ち、ケアでカバーできるよう検討していかれてほしい。又、そのような取組みを運営推進会議等でも報告して、意見等を聞いてみてはどうだろうか。「利用者の安全で自由な暮らし」に向けて取り組まれることが期待される。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会やユニット会などで、話し合ったり介護技術については会の終わりの時なども利用して行ったりもしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及びリーダーは研修等で学んでいるが全職員のものとはなり得ていない。 機会のある時は後見人様の話を聞くなどして、スタッフ全員が理解出来るようにスタッフ会などの勉強会で資料を配付し説明を行った	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、重要事項などの説明も行い納得して頂き契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回、家族様へ利用者の現状を報告したり、入り口には意見箱の設置をしている。家族様にも、行事に参加をして頂けるよう連絡をしたり、来所時には意見、要望がないか声掛けをしたりサービス担当者会議にも参加して頂いている。 (外部評価) 月に1度、日常や行事等の写真を載せた「下の茶屋便り」を発行し、ご家族に送付されている。日常の暮らしぶり等を書いた手紙も同封されている。又、玄関にも便りを置き、親族の方等が持ち帰ることもでき、喜ばれている。事業所では、「職員は、ご家族の代わりにはなれない」「利用者のご家族の顔がみたいのではないかな」という思いから、なるべくご家族に来ていただき、ご本人と接してもらえるように、おむつ類を少しずつ持って来てもらう等、ご家族にさいさい「足を運んでいただけるように」声をかけておられる。毎日、昼食の食事介助に来られるご家族もあり、調査訪問時も、食事介助されるご家族の様子がかがえた。食事介助が終わると、職員がコーヒーをお出しして、行事予定を伝えたりお話をされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月1回全体会やユニット会を行いスタッフ全員で話し合いを行っている。行事などの担当を決め全員で協力をできる様計画している。	
			(外部評価)	
		パソコンの得意な職員は、事業所便り作成の担当になったり、裁縫が趣味の職員がタペストリー等を作って壁に飾ったり、又、職員が行事時、三味線を弾いたりして、職員の得意なことや趣味を活かして活動できるよう取り組まれており、そのような取り組みは職員のやりがいや定着につながっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			研修への参加の呼びかけを行い、自ら参加したい研修を受けられる様配慮している。休憩時間も十分取れなかったり、時間外になる時もある為スタッフで話し合い改善出来る様努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講出来る様にし、会で発表したり、共有出来る様努めている。(業務の流れやマニュアルに沿って新しいスタッフが慣れるまでその人に合わせたペースで勤務できる工夫をしている) 今年より講師を招き社内での研修も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			東予地区や、中予での研修、交流の場に積極的に参加している。 又グループホームの相互研修で交流を持ち、サービスや質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前面接を実施し、体験して頂いたり、本人や家族からの話を十分聴いて努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 新規入居時には本人や家族と十分話をしている。入居後も 折に触れ意見や希望する事がないか、家族に声を掛けてい る。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 常に受診を希望される時は出来る限り付き添い送迎等も積 極的に支援できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) その人の出来る部分を生かし、一緒に作業したり、洗濯物た たみ等をお願いして手伝ってもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に情報を提示したり、下の茶屋便りを送付して行事への 参加を呼びかける等して関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 何時でも誰でも来てもらえるようにしている。 近所から入所されている方もおり、遊歩道の散歩中に、馴染 みの方とお話ししたりする事も出来ている。 (外部評価) 事業所のすぐ側に、鉱山鉄道跡の遊歩道がある。地元の方 には、馴染みがあり懐かしく、天気の良い日は散歩に出か け、行き交う方と挨拶を交わしたり、知人とおしゃべりを楽しま れている。事業所では、ご家族との関係継続を大切に支援さ れており、誕生日にご本人から外食等の希望があれば、ご 家族もお誘いして一緒にお祝いできるよう取り組まれている。 定期的に、ご家族と外食する方がおられ、職員が待ち合 わせ場所まで送迎をされている。ご家族のご葬儀に利用者 の方が参列する際に、管理者が付き添われたこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 全員でテーブルを囲んでボール遊びをしたり歌ったりしている。 又他のユニットの入居者と話の合う人と交流できるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院後に他施設へ移るケースが多く関係が切れてしまいがちである。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話に折り込んで聞いたり家族の訪問時に情報を得るようにしている。 (外部評価) アセスメントには、ご本人の「嬉しいこと、快いと感じること」について情報を集めて記録されている。毎日、職員が見守りながら日記を書く方がおられ、「花見に行きました。お天気でした」等、利用者が書いた日記の中からも「利用者の心地よさ」等も、推し量ることに取り組まれている。お孫さんが書いたページもあり、ご本人は「宝物のように」大切にされているようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や担当者などから情報を得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様の行動を観察したり、会話の中から性格やなじみの暮らし方を探る様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者の現状や思い、課題などスタッフ全員が感じている事を拾い出してその中から共通する事を見つけ介護計画作成に反映しアセスメント、モニタリングを書き出してサービス担当者会議で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			これまでは、利用者個々の介護計画の一覧表である「ケアプラン表」を事務所に貼って職員に見えるようにしておられたが、現在は、職員で共有して実践できるようクリアファイルに入れて、いつでも手にとって見られるようにされていた。7月からは、「ケアプランに沿って記録を書く」よう取り組まれている。計画の短期目標のモニタリングを、毎日、日勤者が実施され、基本的に6ヶ月毎に計画を見直すようになっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			お誕生会の外出や外食の際に家族を招待したり家族が来れない時はスタッフがボランティアで支援に入ったりする事もある。行事のある時は外部の人的支援や物理的支援網が出来てきている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			夕涼み会等地域の自治会や老人会等の協力を得て招待しあつて交流を図り共に楽しんでいる。 近所のお寺の花まつりに参加し、昔ながらの風習を大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に希望の受診先を聞いている。往診の際本人や家族の希望、本人の状態を付き添ってドクターに伝える支援をしている。外部の病院を受診される際は家族さんの希望でスタッフが同行する事もある。車椅子の方などが受診しやすい様送迎などの支援も行っている。	
			(外部評価) 協力医療機関であるかかりつけ医は、2週間に1度往診して下さる。協力医療機関には、入院の設備がなく、24時間対応していただくことが難しいため、緊急を要すると職員が判断した時には、救急搬送するようになっている。週に一度、協力医療機関である歯科より歯科衛生士の訪問があり、希望のある4～5名の利用者が口腔ケアを実施してもらったり、ケアについて職員にアドバイスしてもらっている。管理者は、今後、歯科衛生士の協力を得て、口腔ケアの勉強会を行いたいと考えておられた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職は在職していないので、利用者の状態や気づきを職員同士で伝え合い共有し、家族とも連携し合い、月2回の往診時や緊急時に、ドクターと相談したり病院受診の支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	自己評価 入院時は担当ドクター、看護師、ソーシャルワーカーとの面談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 充分に出来ていない。 今後は色々検討して行きたいと思っている。	
			(外部評価) 事業所では、入居時に「食事が口から食べられなくなったり、医療行為が必要になれば事業所での支援が難しい」ことをご家族に説明されている。協力医療機関は、24時間の対応が難しく、入院の設備がないこと等もあって、ご家族は、「何かあれば救急搬送してください」と言われるようだ。入退院を繰り返しながらも、事業所での生活を支援されていた利用者が、口から食事が摂れなくなり、入院が継続となったが、ご家族の協力が難しかった方でもあり、職員が病院で身の回りの世話をされたり、最期の時にも立ち会われた事例もある。	管理者は、「ご家族の協力があれば、事業所での看取りもできるかも知れない」と話されたが、職員の知識や緊急時の対応等について十分でない面もあるという思いもあり、「安易に看取り支援を引き受けるべきではない」と考えておられた。利用者の希望を大切に、利用者主体のケアに取り組むことがグループホームの特長でもあり、「利用者、ご家族の希望があれば、住み慣れた自宅や事業所で最期を迎えることもできる」ような体制の整備に向けて、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応方法については、書類にまとめており、それに各自目を通す様になっている。 訓練等は行っていないが、研修等に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。 (外部評価) 6月に実施された避難訓練は、消防署の協力を得て、「エアコンの室外機からの出火」を想定して実施された。消防署からは、いざという時は非常口まで利用者を誘導し、待機するよう指導を受けておられる。事業所は、建物の2・3階に位置しており、地震発生時は、3階に避難するようになっている。又、近くの介護施設と「防災協力」を結んでおられ、相互協力体制をとられている。昨年10月に、スプリンクラーを設置された。	事業所は2・3階に位置していることから、もしもの時のために、地上へ降りるための避難方法等を消防署の方に教えていただいてはどうだろうか。又、備蓄について検討されたり、地震発生を想定しての訓練も行ってみてはどうだろうか。さらには、ご家族も訓練に参加するような機会を作ったり、ご家族が不安や心配に思うことを聞き取ったりして、訓練に活かしていかれてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人らしい暮らしが出来ているか、利用者本位の支援が出来ているかを常に考えながら支援している。役割を持って貰いながら何気ない支援の中、尊厳・誇り・プライバシーを保つ言葉かけや居場所、環境作りの見直しをユニット会で定期的におこなっている。 (外部評価) 法人で、今年はいじめて外部から元客室乗務員を講師として招き「接遇」研修を実施され、職員は、利用者への対応について学ばれた。調査訪問時、職員間の業務上の会話や利用者への声かけ等について、利用者への配慮が必要と感じるような場面があった。	利用者への言葉かけや職員間のやりとり等について、職員で振り返り、点検するような機会を作られてはどうだろうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフの一方的な支援にならないように声かけに注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人のその日の体調により起床時間、食事時間 等合わせるように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 毎日自分で化粧をしたり着替えの際組み合わせを選んでも らったりしている。 自分で出来づらい人にはその人が好んでいる服を着てもら えるよう支援している。 又外出時はお出かけ用の服を着て貰う等少しでもおしゃれ 出来る様に支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スタッフと利用者が月に一度手作り料理を作る様にしてい るが一緒に料理を作る事が難しくなっている。 スタッフ、利用者共に一緒に食事をして食器は下膳される利 用者もいる。 (外部評価) 法人の厨房で業者が作った食事が、密閉容器で届くようになって おり、ユニットの台所では、ご飯を炊いたり、汁物を温め直しておら れる。おかずをきざんだり、ミキサーにかける等、利用者の状態に よって食べやすく手を加えておられた。月に一度、昼食に「手作り クッキング」の日を設けておられ、利用者の希望で、お好み焼きや 焼きそば、これからの季節は芋炊きや鍋物等を手作りされている。8 月は、竹を使ってそうめん流しを楽しまれた。おやつは、時々手作 りされており、調査当日、ホットプレートで囲み、パンケーキを焼い ておられた。利用者は、材料を混ぜる等されるようだ。昼食時は、ご 自分で下膳される様子がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分量共に記録し把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後声かけをし、一人一人口腔ケアを行っている。 一週間に一度訪問歯科による口腔ケアも実施し嚥下機能の 低下防止に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表により、一人一人のリズムを把握し、声掛け、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			日中は、「なるべくトイレで排泄できるように」支援されている。夜間は紙おむつや居室でポータブルトイレを使用する方もおられるが、昼間は紙パンツにパッドを使用し、トイレで排泄をされる方がほとんどである。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			週2～3回程の入浴を実施している。入浴を拒む利用者には、シャワー浴、足湯等を行っている。	
46		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(外部評価)	
			基本的には、午後から入浴となっているが、お風呂がお好きで毎日入る方もあり、希望があれば朝でも入っていただけるよう支援されている。入浴を好まない方がおられるが、声かけのタイミングを工夫したり、仲のよい方と一緒に入っていただく等、週2回は入浴できるよう支援されている。ボディソープと石鹸を用意され、ご自分で身体を洗う方は、石鹸を使用される方が多いようだ。ご自分で「浴槽をまたぐことが難しい」方は、職員2人で介助して支援されている。体格のよい利用者はシャワー浴のみの方もおられるが、ケアや用具等を工夫して希望に応じて浴槽で温まっていたくことはできないだろうか、考えてみてほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人一人の体調と状況に応じて食後等、休息の支援をしている。居室に戻り休まれたり、ホールでゆったりとソファに座られたり自由な過ごし方の支援をしている。夜間は時間毎の訪室等で安否確認をし良眠支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			毎日服薬確認を行い薬に変更があった時にはスタッフ間の申し送りや数日間個別の記録を取りこまめな情報の共有をし対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			利用者の一人一人の身体能力に合わせ洗濯物、お盆拭き等の作業の支援を行っている。レクリエーションに心がけ気分転換に出掛けたり、ぬり絵なども取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			出来る限り毎月テーマを決めて行事をやっており、家族さんの協力もあり、折に触れての外出支援も行っている。	
			(外部評価)	
			7月、石鎚ハイウェイオアシスまでドライブされ、おやつにアイスクリームを食べ、昼食はレストランでお寿司やうどんを召し上がられた。つつじやバラ、菖蒲等、季節の花を見にドライブされたり、おやつを買いにスーパーや産直市等へ出かけておられる。利用者の希望で、職員と一緒に映画を見に行かれたり、新聞で青函連絡船の「羊蹄丸」が港で公開されるという記事を見て、利用者からの希望で見学に行かれたこともある。近くにある法人の高齢者マンションに職員と一緒に出かけに行き、自動販売機でコーヒーを買うことを楽しみにされている方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			お金の管理が出来ないので、必需品の購入はご家族の了解を得ている。又おやつなどの買い物の際には、同伴できる利用者と一緒に行く支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			届いた手紙など本人にお渡ししている。必要な場合は電話をかけた後家族様の電話を取り次いでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			毎朝全体の清掃、整理に努め季節の花を飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			ユニットの入り口には、職員が、リンドウや鶏頭等の生花を生けておられ、洗面所等にも、涼しげなガラスの花瓶に百日紅等を生けておられた。共用空間の壁には、コルクボード等を使って行事の写真等を飾っておられる。調査訪問時の午前中「新居浜小女郎たぬき」の歌に合わせて、鳴子を鳴らしながら利用者と職員で体操をされているユニットもあった。ガラス窓からは、日差しがよく入り明るい、西側は日差しが強いため、今夏、カーテンから室温が「8度下がる」というブラインドに取り替え「熱中症対策」に努められた。利用者用のコーヒーチケットが用意されており、ティータイムの時間、気分を替えてお茶の時間を楽しめるよう、チケットを持って他ユニットへ行き、ティータイムを過ごしていただくような取り組みをされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			馴染みのものなど生活習慣にあった物が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			ご家族の写真や、長寿の祝いに市長等からいただいた表彰状が額に入れて飾ってあった。仏壇を持ち込まれている方は、朝食に出たパンを一つ供えておられた。ベッドからの転落が心配される方は、すのこの上に一畳分の畳を敷いて、寝床にいただいている。居室が隣同士で気の合う方がおられ、部屋を行き来される方もおられる。調査訪問時、手をつないで居間に出て来られる様子がみられた。高齢の方や介護度が重度の方は、午後からは居室で横になり、休む時間を作っておられる。	